

季節性インフルエンザ ワクチン接種開始

毎年秋から冬にかけてインフルエンザが流行します。今年は新型コロナウイルス感染症もあり、発症するとどちらが原因か区別がつかなくなる恐れがあります。国においては、過去5年で最大量(約6,300万人分)のワクチンを供給予定ですが、重症化する恐れのある65歳以上の人(定期接種対象者)から優先的に接種することができるよう、ご協力をお願いします。

●優先的に接種できる人

10月1日(木)～

65歳以上の人(定期接種対象者)

※60歳から65歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器不全者なども接種できます。

10月26日(月)～

**医療従事者、基礎疾患を有する人、
妊婦、生後6カ月～小学校2年生**

※上記以外の人でも接種することができます。10月26日(月)以降は、接種を待つ必要はありません。

●助成対象者および接種費用

| 接種日の年齢 | 1回目 | | 2回目 | |
|------------------|--------|--------|--------|--------|
| | 助成 | 自己負担 | 助成 | 自己負担 |
| 生後6カ月～12歳 | 3,128円 | 1,000円 | 3,128円 | 1,000円 |
| 13歳～15歳(中学3年生まで) | | | | |
| 65歳以上 | 3,216円 | 1,000円 | | |

※高校生～64歳までの人の接種費用は、全額自己負担となります。ただし、60～64歳の人で障がいを持っている人は助成対象になることがあります。

※生活保護世帯の場合、自己負担は無料となります。

問い合わせ 健康ほけん課健康づくり班 ☎22-9125

コロナ禍でも医療機関で 必要な受診を!

1 過度な受診控えは、健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。

新型コロナウイルス感染症への感染を心配して、医療機関で必要な受診を控える傾向が強まっています。



2 コロナ禍でも持病の治療や予防接種・健診などの健康管理は重要です。

定期的に健診やがん検診を受けることが生活習慣病の予防や、がんの早期発見・早期治療につながります。

また、定期的に飲んでいる薬を切らすと、持病が悪化してしまうおそれがあります。持病がある人は、定期的な受診をお願いします。リハビリも可能な範囲で継続しましょう。



3 医療機関では感染防止対策が行われています。

医療機関では、患者の皆さんにわかりやすいマークの掲示や自主的ガイドラインによる取り組みにより、しっかりとした感染防止対策が行われています。

受診前 体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください。

受診後 手洗いなどの感染対策をしっかりしましょう。予防接種を受けた日も、お風呂に入れます。

4 具合が悪いなど健康に不安がある場合は、まずはかかりつけ医に相談。

かかりつけ医に相談しながら健康や持病を管理していくことが新型コロナウイルス対策にもとても重要です。



問い合わせ 健康ほけん課健康づくり班 ☎22-9125